

## 検査受検者の属性

表 1. 受検者の年齢構成

	男性 n=86	女性 n=36
20歳未満	15.1	36.1
20-24歳	44.2	30.6
25-29歳	12.8	16.7
30-34歳	1.2	0.0
35歳以上	1.2	0.0
無記入	25.6	16.7

クラミジア抗原検査の受検者の性別年齢構成を示した。男性受検者はアンケート参加者とほぼ同様の年齢構成であるが、女性受検者はアンケート参加者よりも若い年齢層が多く検査を受けていた。（\*：n数が検査受検者数より少ないのは、アンケートに参加しなかった受検者が存在したためである。）

表 2. 受検者の職業分布

	男性 n=86	女性 n=36
学生	15.1	30.6
会社員	29.1	22.2
フリーター	19.8	19.4
無職	3.5	5.6
その他	7.0	5.6
無回答	25.6	16.7

受検者の職業分布をアンケート参加者の職業分布と比較すると、男性では会社員の割合が増加し、女性では学生の割合が少し増加していた。

## 検査受検者の性行動の特徴

表 3. これまでの相手の総数

	男性 n=86	女性 n=36
1人	1.2	2.8
2人	2.3	2.8
3人	0.0	2.8
4人	1.2	8.3
5人以上	83.7	66.7
無記入	11.6	16.7

表 4. 過去1年間の相手数

	男性 n=86	女性 n=36
1人	16.3	13.9
2人	9.3	11.1
3人	17.4	27.8
4人	7.0	8.3
5人以上	36.0	13.9
無記入	14.0	25.0

クラミジア受検者とアンケート参加者のセックスの相手の数を比較すると、検査受検者の方が男女とも、これまで/過去1年間のどちらの期間においても相手の数が多かった。

一番最近のセックス時のコンドーム使用率：検査受検者のコンドーム使用率は男性 38.4%、女性 27.8%であり、アンケート参加者に比べコンドーム使用率が低かった（cf.男性 45.1%、女性 38.6%）。

## STD リスク認知

表 5. STDリスク認知

	検査受検者 n=122
まったくない	12.3
非常に低い	13.9
低い	10.7
中くらい	22.1
高い	13.1
非常に高い	8.2
わからない	12.3
不明	7.4

クラミジア検査受検者の STD リスク認知は、アンケート参加者全体と比較すると、STD の感染リスクが「まったくない」と感じている人の割合が半分になり、逆に感染リスクが「高い」と感じている人の割合が倍増し、アンケート参加者全体よりもリスクを感じている人が多かった。

以上の結果より、検査受検者の特徴をまとめると、アンケート参加者全体よりも、性行動が活発で無防備、かつSTD感染リスクを感じている人の割合が高いことが示唆された。

### クラミジア抗原陽性率

クラミジア抗原陽性率は男性が10.9% (10/92人)、女性が13.5% (5/37人)であった。

### クラミジア抗原陽性者のSTD/HIVリスク認知および検査行動

表5. STDリスク認知		表6. HIVリスク認知	
	陽性者 n=14		陽性者 n=14
まったくない	7.1	まったくない	7.1
非常に低い	0.0	非常に低い	7.1
低い	7.1	低い	28.6
中くらい	0.0	中くらい	7.1
高い	42.9	高い	14.3
非常に高い	7.1	非常に高い	0.0
わからない	14.3	わからない	14.3
不明	21.4	不明	21.4

STDおよびHIV感染のリスクを感じている人の割合は高いが、過去1年間にSTD検査を受けた人はわずか14.3% (2/14人)で、HIV抗体検査を受けた人は一人もいなかった。

**考察：**アンケート参加率が約1-3割と低率であるため、今回の結果はクラブY入場者の代表であるとは言えない。また、入場者全体の属性分布も不明であるため、アンケート参加者の偏りも推測できない。したがって、今回の調査結果は、一部のクラブ入場者の特徴として捉えていただきたい。

本調査より、クラブ入場者の全体像は把握できなかったが、一部ではあるが、これまで全く情報のなかったクラブ利用者の特徴が明らかとなった。その特徴をまとめると①年齢層：20代前半がピーク、②職業：会社員・学生・フリーターが主であった。③STD/HIV関連知識：比較的高かった。④セックスの相手数：生涯/過去1年ともに多かった。⑤コンドーム使用状況：常用者はわずか1割強でほとんどが不完全使用。相手の数の多い人程コンドームを使わない傾向。⑥欲しい情報：STD関連の基礎情報を求めている。

これらの特徴を持つアンケート参加者の中の、さらに一部がクラミジア抗原検査を受けたが、受検者はアンケート参加者全体よりも、性行動が活発で無防備な人が多かった。クラミジア抗原陽性率は男性11%、女性14%であった。クラミジア抗原陽性者はSTD/HIVの感染リスクは感じていたが、過去1年間に実際にSTD検査を受けたものは1割強に留まり、HIV検査にいたっては、皆無であった。

**調査の限界と今後の課題：**調査参加率が低率であった背景としては、対象者からの参加拒否というより、リクルートの問題が考えられた。今回、調査および検査参加者のリクルートに際し、入場者全員に、調査参加依頼のフライヤーは配布できたが、“クラブ”という場所柄、人口密度が極めて高かったため、スタッフによる口頭での参加呼びかけが極めて困難であった。また、DJ・アーティストとの話し合いが十分にできていなかったため、DJ・アーティストによる調査参加の呼びかけも不十分であった。そのため、調査・検査の実施に気が付かなかった対象者もかなり存在したと考えられる。次回は、“クラブ”のオーナーだけでなく、DJに対しても、イベント企画の初期段階から彼らを巻き込み、積極的な参加を促したい。

また、参加者が活発で無防備な性行動をとりながらもSTD関連の具体的な基礎情報を求め

ており、その needs に答える情報提供の場を検討する必要性が示唆された。また、クラミジア陽性者が STD や HIV に対する危機意識は持っているのに検査につながらない背景を探り、受けやすい検査体制の整備が急務であることが示唆された。

今回の啓発事業および調査は、行政・NGO・コミュニティー・研究者の連携で行われたが、効果的な予防対策を実施するには、今後もこのようなパートナーシップを強化していくことが必須であると考えられる。

#### 参考文献

- 1) 熊本悦明他：PCR 法による *C.trachomatis* および *N.gonorrhoeae* 同時診断キット（案プロコア RSTD-1 クラミジアトラトマチスおよびナイセリアゴノレア）の基礎的・臨床的検討；日本性感染症会誌；Vol.6,No.1,62-71,1995
- 2) 佐藤英子他：妊婦 *Chlamydia trachomatis* 感染症スクリーニング検査としての尿検体の有用性－Polymerase Chain Reaction (PCR)法を用いて－；日本性感染症会誌；Vol.10,No.1,158-162,1999
- 3) Servaas A.Morre, et.al; Mailed, Home-obtained urine specimens: a reliable screening approach for detecting asymptomatic *Chlamydia trachomatis* infections; *Journal of clinical microbiology*, 976-980,1999
- 4) Charlotte A.Gaydos, et.al.;Molecular amplification assays to detect chlamydial infections in urine specimens from high school female students and to monitor the persistence of *Chlamydial* DNA after therapy; *The journal of infectious diseases*; 177;417-424, 1998
- 5) Mrius Domeika, et.al.;Use of PCR for the detection of genital *Chlamydia trachomatis* infection on self-obtained mailed vaginal samples; *Acta obstet Gynecol Scand* 2000; 79, 570-575
- 6) Harold C.Wiesenfeld, et.al.;The vaginal introitus:A novel site for *Chlamydia trachomatis* testing for women; *Am.J.Obstet.Gynecol.*Volume174,Number 5, 1542-1546,1995
- 7) Margaret Polaneczky, et.al.; Use of self-collected vaginal specimens for detection of *Chlamydia trachomatis* infection; *Obstetrics & Gynecology*, Vol.91,No.3, 375-378,1998

### 研究③ サンフランシスコおよびその近郊在住日本人留学生の性的健康に関する研究

日高 庸晴 京都大学大学院医学研究科国際保健学  
木原 雅子 広島大学医学部公衆衛生学  
木原 正博 京都大学大学院医学研究科国際保健学

#### 研究要旨

米国における日本人留学生の性的健康に関する調査研究はこれまで多くは行われておらず、その実態が十分に明らかになっているとは言い難い。そこで、サンフランシスコおよびその近郊在住の日本人留学生を対象として、コンドーム使用行動等の性的健康に関する横断調査を実施した。過去1年間の決まった/その場限りのセックスの相手の両方において、コンドーム常用率は比較的低率であることが示され、本対象集団に対する HIV 予防介入の必要性が示唆された。また、過去1年間の過度のアルコール摂取率は 15.2%~35.6%、マリファナ使用率は 15.6%~22.4%であり、エクスタシーなどのパーティ・ドラッグの使用も明らかとなった。HIV 予防介入を行う際に薬物使用の予防介入も同時に行う必要性があることが示唆された。

#### 研究背景および目的

HIV の prevalence の高低に関わりなく、諸外国における日本人の性行動に関わる調査研究はこれまであまり実施されておらず、海外における日本人の性行動の実態はほとんど明らかになっていないと言えよう。とりわけ、若者の留学先における性的健康や薬物使用行動の実態に関する研究は少ない。これまでに米国在住日本人を対象とした研究は、ニューヨークやサンフランシスコ等の大都市での薬物使用行動に関する研究や、ハワイで旅行者を対象とした研究が実施されているに留まり、米国在住日本人の性行動や HIV 感染リスク行動といった性的健康に関わる調査の蓄積は圧倒的に不足していると言える。

1999 年に 4,841,292 人の日本人が米国へ旅行者として訪問したとされており、同年には 28,214 人の日本国籍の日本人が長期滞在者もしくは永住者としてサンフランシスコ日本領事館に公式登録されている。しかしながら、ビザを必要としない期間内の短期滞在者やビザ保持者の領事館への登録は任意であるため、領事館に登録していない滞在者を含めるとその数の正確な把握は困難であるとも言える。

こうした事由により、母集団の設定が困難な集団の一つである米国サンフランシスコにおける日本人集団の中から、若者の HIV 予防対策に資するために日本人留学生を対象とした性的健康に関する横断調査を実施した。本研究の目的は、日本人留学生の性的健康の増進に寄与するために、サンフランシスコおよびその近郊ベイ・エリア（米国西海岸）在住日本人留学生の性行動や薬物使用行動等の性的健康に関わる実態を明らかにすることである。

#### 研究方法

サンフランシスコおよびその近郊在住日本人留学生を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した（調査実施期間：2001 年 1 月～3 月）。質問紙構成内容は、基本属性に加えて 1) HIV/AIDS 一般知識、2) 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用、3) その場限りの相手とのコンドーム使用、4) 過去 1 年間のアルコールおよび薬物使用行動、5) セルフ・エスティーム (Rosenberg, 山本ら訳による 10 項目、5 件法) 等を主

な質問項目とした。

本研究の対象はサンフランシスコおよびその近郊在住の日本人留学生であるため、研究参加者のリクルートはサンフランシスコ市内をはじめとした教育機関を中心に行った。リクルート地点として教育機関の種類やバランス等を考慮した上で、1)語学学校、2)短期大学、3)4年制大学のそれぞれ1校を選定した。3カ所の教育機関における日本人留学生のリクルートに加えて、サンフランシスコ市内にある日本食スーパーマーケットの掲示板に研究参加を呼びかけるポスターを掲示し、ポスターを通じて補足的に研究参加者をリクルートした。この日本食スーパーマーケットには、誰もが使える掲示板があり、この掲示板は留学生や短期滞在日本人、日系米国人に不要品の売買やルームメイトを探すことを目的に利用されている。情報交換や情報収集の役割を担うこういった掲示板は、日本人コミュニティのチャンネル的役割を担うのではないかと考えられた為、リクルート地点として加えた。

1)~3)の教育機関におけるリクルートを実施するにあたり、各リクルート地点の母集団の数を設定するために、調査実施時点におけるそれぞれの学校の日本人留学生の在籍数を明らかにした。その上で、各リクルート地点のリクルーターを通じた Snowball sampling 法によるサンプリングを行った。リクルーターは、各リクルート地点の教育機関に実際に在籍・通学する日本人留学生当事者とした。

質問紙回答方法は、1)~3)の教育機関におけるリクルートおよびジャパン・タウンのスーパーマーケットに掲示したポスターを通じて研究の実施を知った研究参加者ともに、リクルーターもしくは研究者の面前における自記式質問紙回答（面前自記式）によって行った。なお、質問紙回答後に研究協力謝金として現金\$20を支払った。

## 結果

質問紙配布数 282、回収数 282、有効回収数 275、有効回収率 97.5%であり、性別は男性 116名、女性 159名、平均年齢は全体で 22.3 歳(SD=3.7)であった。リクルート地点それぞれの母集団に対する回収率は、1)語学学校が 83.3%、2)短期大学が 71.2%、3)4年制大学が 67.4%であった。ジャパントウンの掲示板を介してのリクルートは、母集団の設定が困難なため回収率は算出していない。

米国滞在平均月数は 22.2 ヶ月であり、平均年齢は男性は 21.9 歳(SD=2.7)、女性は 22.6 歳(SD=4.3)、全体で 22.3 歳(SD=3.7)であった。自認する性的指向は男女共に 90%以上が異性愛者であり（表 11）、セックスしたい対象の性別においても男女共に 90%以上が異性であった（表 12）。性交経験率は男性 77.6%、女性 74.2%であり（表 13）、研究参加者の基本属性は表 1~19の通りである。また、主観的な語学力（英会話能力）について 1（日常会話も困難）~10 段階（ネイティブと同等）で尋ねたところ平均値は 5.6(1.7)であり、米国滞在月数( $r=.352, p<.000$ )および年齢の高さ( $r=.276, p<.003$ )と有意な相関が認められた。

### 1)HIV/AIDS 一般知識

知識に関して男女共に正答率が低かった項目は、「蚊や虫にさされると感染」「性感染症と HIV の混合感染」「性別による HIV の感染のしやすさ」「感染後 2~3 日で感染が判る」「日本の保健所での無料 HIV 検査」といった項目であった（表 45）。滞在年数と正答率、リクルート地点と正答率に関して有意な関連はなかった。

## 2) 過去1年間の決まった相手とのコンドーム使用

過去1年間に決まったセックスの相手がいた割合は、男性は71.1%、女性は76.2%であった(表20)。決まったセックスの相手の人数は男女共に70%以上が1人であり(表21, 22)、相手のエスニシティも日本人が大半を占めたが、アジア系、ラテン系、アジア太平洋諸島系、アフリカンアメリカン、白人、その他と多岐に渡っており(表23)、留学生のセクシュアル・ヒストリーは日本人同士にとどまっていないことが明らかとなった(図1)。また最も多かった避妊方法はコンドームであり、次いで膣外射精であった(表24)。

コンドーム常用率は、膣性交において35.3%~36.5%(表27)、オーラルセックスでは2.6%~10.4%(表28)、アナルセックスでは25.0%~41.7%(表29)であり、高い常用率であるとは決して言えない現状が明らかとなった。

## 3) その場限りの相手とのコンドーム使用

過去1年間にその場限りのセックスの相手がいた割合は、男性は36.7%、女性は26.3%であった(表30)。その場限りのセックスの相手の人数は、男女共に相手が異性の場合35.5~41.4%が1人であり(表31, 32)、相手のエスニシティも日本人が大半を占めたが、アジア系、ラテン系、アフリカンアメリカン、白人、その他と拡大していることが判った(表33)。過去1年間の決まったセックスの相手のエスニシティと同様に、日本人留学生のセクシュアル・ヒストリーは日本人同士にとどまっていないことが明らかとなった。また、最も多かった避妊方法はコンドームであり、次いで膣外射精であることも、決まったセックスの相手との性交時の避妊方法と同様であった(表34)。

コンドーム常用率は、膣性交において40.0%~43.3%(表37)、オーラルセックスでは0%~8.7%(表38)、アナルセックスでは0%~25.0%(表39)であり、決まったセックスの相手との性交時における常用率よりも膣性交においては若干高い割合を示すものの、常用率は比較的低率であることが判った。

## 4) 過去1年間のアルコールおよび薬物使用行動

過去1年間における、過度のアルコール摂取やマリファナ、エクスタシー、クラック・コカイン・クリスタル・スピード、LSD・マッシュルーム等の薬物使用行動について「決まったセックスの相手」「その場限りのセックスの相手」「セックス以外の場面」それぞれの使用頻度を尋ねた。その結果、過度なアルコール摂取は15.2%~35.6%、マリファナ使用率は15.6%~22.4%、エクスタシーは2.6%~4.7%であった。さらに、常習性が高いとされるクラック・コカイン・クリスタル・スピードの使用率は全体で2.9%、LSD・マッシュルームの使用率は0.7%であった(表41~43)。

## 5) セルフ・エスティーム

Rosenbergのセルフ・エスティーム尺度(山本ら訳10項目5件法、range 10点~50点)により、自己受容や自分自身についてどのように感じているか、というセルフ・エスティームを測定した。Rosenbergの定義によると、セルフ・エスティームとは他者比較で優越感や劣等感を感じるのではなく、自分について「これでよい」と感じる程度であると言われている。この尺度は、尺度得点が高いほどセルフ・エスティームの高さを表している。

一元配置分散分析の結果、年齢階級（10歳幅）とセルフ・エスティーム尺度得点は有意であった（ $p<.044$ , 表 44）。また、主観的語学力とセルフ・エスティーム尺度得点も有意であった（ $p<.000$ , 表 45）。日常生活の中で語学力に裏付けされた円滑なコミュニケーションは、自尊心にも大いに関係していると言えるため、留学生のセルフ・エスティームの要件として語学力の影響は大きいと言えるだろう。また、コンドーム使用頻度とセルフ・エスティーム尺度得点に関連はなかった。

性的指向とセルフ・エスティームの関連に関して、米国では異性愛者よりも性的少数者の方が社会的・差別偏見や性的指向の受容過程などの影響から、セルフ・エスティームは低いと言われている。本研究の対象は 95%以上が自認する性的指向は異性愛であると回答しているが、一元配置分散分析の結果、性的指向とセルフ・エスティームは有意傾向が認められ、異性愛者は非異性愛者よりもセルフ・エスティームが高い（つまり性的少数者は異性愛者よりもセルフ・エスティームが低い）傾向にあることが示された（ $p<.095$ ）。

## まとめ

HIV/AIDS に関する知識は一部の項目を除いて全般的に比較的高率であるにも関わらず、コンドーム常用率はセックスの相手（過去 1 年間の決まったセックスの相手、その場限りのセックスの相手）に限らず低率であった。また、知識においても極端に正答率が低い項目に対しては、対応する適切な情報提供が必要であることが示唆されたと言える。これらの結果から、サンフランシスコおよびその近郊在住日本人留学生への HIV 予防介入が必要であることが示されたと言える。

パーティなどで気軽に使われることが多いと考えられるマリファナであるが、その使用率は 15.6%～22.4%であった。さらにマリファナ以外の薬物（エクスタシー、クラック・コカイン・クリスタル・スピード、LSD・マッシュルーム）はマリファナに比較すれば使用率は低率であったが、これらの結果は薬物が日本人留学生の日常生活に確実に浸透していることを示していると言えよう。マリファナは他の薬物の gateway drug とも考えられ、さらに刺激や常習性の強い薬物へ移行する前段階の興味喚起的な側面もあると考えられる。留学生が不足させている HIV/AIDS の知識を補充し、コンドーム使用を呼びかける HIV 予防介入を実施する際に、薬物使用の予防介入も必要であろう。薬物そのものもたらす不健康性もさることながら、薬物使用時の性行動はセーフターセックスの判断力を低下させるとも言え、HIV 予防の観点からも薬物予防介入が必須である。

本邦とは異なる米国の文化の中における日本人留学生が、コンドームを何故「使わないのか」「使えないのか」、薬物使用の背景因子としてどのような因子が考えられるのか等、健康行動を阻害する背景因子を明らかにすると共に、文化的・社会的さらにはそういった環境下におけるセルフ・エスティームなどの心理的要因にも配慮した予防介入が必要であろう。

表1 年齢分布

	男 (n)	女 (n)	P 値
10代	13.8 (16)	13.2 (21)	$\chi^2=6.8$ .079
20代	82.8 (96)	77.4 (123)	
30代	1.7 (2)	8.8 (14)	
無回答	1.7 (2)	0.6 (1)	

表2 平均年齢

Sampling 場所	男 M(SD)	女 M(SD)
4年制大学	22.1 (2.6)	22.0 (2.8)
短期大学	21.3 (1.8)	20.7 (1.9)
語学学校	22.9 (4.2)	29.6 (6.4)
Japan Town	25.3 (3.9)	25.1 (5.0)

表3 サンプルング場所別男女比

Sampling 場所	男 (n)	女 (n)	全体 (n)
4年制大学	35.3 (41)	36.5 (58)	36.0 (99)
短期大学	47.4 (55)	41.5 (66)	44.0 (121)
語学学校	11.2 (13)	10.7 (17)	10.9 (30)
Japan Town	6.0 (7)	11.3 (18)	9.1 (25)

表4 米国での職業、学生の種別

	男 (n)	女 (n)	P 値
語学学校	12.9 (15)	15.2 (24)	$\chi^2=1.8$ .874
短期大学	48.3 (56)	46.2 (73)	
4年制大学	32.8 (38)	33.5 (53)	
大学院	5.2 (6)	3.2 (5)	
その他	0.9 (1)	1.3 (3)	

表5 日本での最終学歴

日本最終学歴	男 (n)	女 (n)	P 値
中学	0.9 (1)	2.5 (4)	$\chi^2=6.9$ .226
高校	68.1 (79)	61.4 (97)	
専門学校	12.1 (14)	14.6 (23)	
短期大学	3.4 (4)	9.5 (15)	
大学	15.5 (18)	11.4 (18)	
大学院		0.6(1)	

表6 居住形態

	男 (n)	女 (n)	P 値
一人暮らし	22.4 (26)	12.8 (20)	$\chi^2=4.4$ .108
ルームメイト	62.1 (72)	71.2 (111)	
その他	15.5 (18)	16.0 (25)	

表7 ピザ状況

	男 (n)	女 (n)	P 値
F-1	95.7 (110)	95.5 (149)	$\chi^2=.34$ .952
J-1	0.9 (1)	1.3 (2)	
H-1	0.9 (1)	1.3 (2)	
その他	2.6 (3)	1.9 (3)	

表8 自宅でのインターネット利用

	男 (n)	女 (n)	全体
利用している	77.6 (90)	83.0 (132)	80.7 (222)

表9 米国滞在年数

	男 (n)	女 (n)	P 値
6ヶ月未満	6.0 (7)	2.5 (4)	$\chi^2=12.0$ .062
1年未満	31.0 (36)	27.0 (43)	
1年~2年未満	26.7 (31)	42.8 (68)	
2年~3年未満	18.1 (21)	10.7 (17)	
4年~5年未満	12.9 (15)	13.8 (22)	
6年以上	5.2 (6)	2.5 (4)	
無回答		0.6 (1)	

表10 平均滞在月数(単位=ヶ月)

Sampling 場所	男	女
4年制大学	32.4ヶ月	31.4ヶ月
短期大学	17.9ヶ月	16.2ヶ月
語学学校	8.4ヶ月	13.6ヶ月
Japan Town	28.6ヶ月	20.2ヶ月

表11 自認する性的指向

性的指向	男 (n)	女 (n)	P 値
異性愛	94.8 (110)	95.0 (151)	$\chi^2=3.8$ .432
同性愛	0.9 (1)		
両性愛	2.6 (3)	1.9 (3)	
判らない	1.7 (2)	1.3 (2)	
決めたくない		1.9 (3)	

表12 セックスしたい対象の性別

相手の性別	男 (n)	女 (n)	P 値
男性のみ	0.9 (1)	91.8 (146)	$\chi^2=259$ .000
主に男性		3.8 (6)	
女性のみ	94.8 (110)		
主に女性	1.7 (2)	1.3 (2)	
男女両方	1.7 (2)	1.3 (2)	
判らない	0.9 (1)	1.9 (3)	

表13 性交経験

	男 (n)	女 (n)	全体 (n)
経験あり	77.6 (90)	74.2 (118)	75.6 (208)

表14 米国滞在中にお金を払ったセックス(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
経験あり	8.9 (8)	0 (0)

表15 米国滞在中にお金をもらったセックス(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
経験あり	1.1 (1)	0.8 (1)

表16 過去1年間にSTD罹患経験(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
罹患あり	1.1 (1)	5.1 (6)

表17 過去5年間にHIV抗体検査受検(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
受検した	5.5 (5)	13.6 (16)

表18 過去1年間にHIV抗体検査受検(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
受検した	2.3 (2)	6.8 (8)

表19 HIV抗体検査 自宅簡易検査キット利用率  
(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
使用経験あり	0 (0)	2.5 (3)



表 20 過去 1 年間に決まったセックスの相手  
(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)
いた	71.1 (64)	76.2 (90)

表 21 過去 1 年間の決まったセックスの相手の人数(相手が男)

相手が男	男 (n)	女 (n)
1 人	75.0 (3)	78.3 (65)
2 人	25.0 (1)	14.5 (12)
3 人		6.0 (5)
4 人以上		1.2 (1)

表 22 過去 1 年間の決まったセックスの相手の人数(相手が女)

相手が女	男 (n)	女 (n)
1 人	77.6 (45)	100 (2)
2 人	12.1 (7)	
3 人	8.6 (5)	
4 人以上	1.7 (1)	

表 23 過去 1 年間の決まったセックスの相手のエスニシティ(M.A.)

	男 (n)	女 (n)
日本人	93.8 (60)	61.1 (55)
アジア系	3.1 (2)	11.1 (10)
ラテン系		3.3 (3)
アジア太平洋諸島系		1.1 (1)
アフリカンアメリカン		3.3 (3)
白人	3.1 (2)	23.3 (21)
その他		3.3 (3)

表 24 決まったセックスの相手が異性の場合の避妊手段(M.A.)

	男 (n)	女 (n)
コンドーム	87.5 (56)	83.3 (75)
膣外射精	45.3 (29)	52.2 (47)
安全期間 (オギノ式)	3.1 (2)	6.7 (6)
経口避妊薬 (ピル)	4.7 (3)	13.3 (12)
射精を伴わない性交渉	3.1 (2)	2.2 (2)
殺精子剤 (避妊フィルム)	1.6 (1)	2.2 (2)
その他		1.1 (1)

表 25 過去 1 年間の決まったセックスの相手とのセックスの頻度

	男 (n)	女 (n)
年 1~2 回以下	3.1 (2)	
年 3~4 以下	3.1 (2)	10.0 (9)
2 ヶ月に 1 回程度	1.6 (1)	1.1 (1)
月 1 回程度	7.8 (5)	4.4 (4)
月 2~3 回	21.9 (14)	17.8 (16)
週 1 回程度	25.0 (16)	13.3 (12)
週 2~3 回	20.3 (13)	34.4 (31)
週 4 回	4.7 (3)	7.8 (7)
週 5 回以上	12.5 (8)	11.1 (10)

表 26 過去 1 年間のセックスでの行為別経験率

行為	男 (n)	女 (n)
膣性交	98.4 (63)	94.4 (85)
オーラル	75.0 (48)	84.4 (76)
アナル	12.5 (8)	13.3 (12)

表 27 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(膣性交)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	9.5 (6)	11.8 (10)
全体の半分以上不使用	17.5 (11)	17.6 (15)
全体の約半分は使用	9.5 (6)	12.9 (11)
半分以上は使用	27.0 (17)	22.4 (19)
毎回使用(常用)	36.5 (23)	35.3 (30)

表 28 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(オーラル)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	85.4 (41)	84.2 (64)
全体の半分以上不使用	2.1 (1)	10.5 (8)
全体の約半分は使用		
半分以上は使用	2.1 (1)	2.6 (2)
毎回使用(常用)	10.4 (5)	2.6 (2)

表 29 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(アナル)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	50.0 (4)	25.0 (3)
全体の半分以上不使用	12.5 (1)	8.3 (1)
全体の約半分は使用		8.3 (1)
半分以上は使用	12.5 (1)	16.7 (2)
毎回使用(常用)	25.0 (2)	41.7 (5)

表 30 過去 1 年間にその場限りのセックスの相手

	男 (n)	女 (n)
いた	36.7 (33)	26.3 (31)

表 31 過去 1 年間のその場限りのセックスの相手の人数(相手が男)

相手が男	男 (n)	女 (n)
1 人		41.4 (12)
2 人		34.5 (10)
3 人		3.4 (1)
4 人以上	100 (1)	20.6 (6)

表 32 過去 1 年間のその場限りセックスの相手の人数(相手が女)

相手が女	男 (n)	女 (n)
1 人	35.5 (11)	
2 人	16.1 (5)	
3 人	19.4 (6)	
4 人以上	29.0 (9)	100 (1)

表 33 過去 1 年間のその場限りのセックスの相手のエスニシティ(M.A.)

	男 (n)	女 (n)
日本人	87.9 (29)	64.5 (20)
アジア系	24.2 (8)	9.7 (3)
ラテン系	6.1 (2)	19.4 (6)
アフリカンアメリカン		16.1 (5)
白人	9.1 (3)	32.3 (10)
その他		12.9 (4)

表 34 その場限りのセックスの相手が異性の場合の避妊手段(M.A.)

	男 (n)	女 (n)
コンドーム	84.8 (28)	80.6 (25)
膣外射精	42.4 (14)	41.9 (13)
安全期間 (オギノ式)	6.1 (2)	3.2 (1)
経口避妊薬 (ピル)	3.0 (1)	6.5 (2)
射精を伴わない性交渉		6.5 (2)

表 35 過去 1 年間のその場限りのセックスの相手とのセックスの頻度

	男 (n)	女 (n)
年 1~2 回以下	27.3 (9)	43.3 (13)
年 3~4 以下	18.2 (6)	16.7 (5)
2 ヶ月に 1 回程度	12.1 (4)	3.3 (1)
月 1 回程度	6.1 (2)	13.3 (4)
月 2~3 回	12.1 (4)	3.3 (1)
週 1 回程度	15.2 (5)	10.0 (3)
週 2~3 回	3.0 (1)	10.0 (3)
週 4 回	3.0 (1)	
週 5 回以上	3.0 (1)	

表 36 過去 1 年間のその場限りのセックスでの行為別経験率

行為	男 (n)	女 (n)
膣性交	93.9 (31)	96.8 (30)
オーラル	69.7 (23)	74.2 (23)
アナル	12.1 (4)	6.5 (2)

表 37 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(膣性交)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	30.0 (9)	16.7 (5)
全体の半分以上不使用	13.3 (4)	10.0 (3)
全体の約半分は使用	6.7 (2)	13.3 (4)
半分以上は使用	10.0 (3)	16.7 (5)
毎回使用 (常用)	40.0 (12)	49.3 (13)

表 38 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(オーラル)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	78.3 (18)	82.6 (19)
全体の半分以上不使用	8.7 (2)	4.3 (1)
全体の約半分は使用		13.0 (3)
半分以上は使用	4.3 (1)	
毎回使用 (常用)	8.7 (2)	0 (0)

表 39 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(アナル)

	男 (n)	女 (n)
一度も使わなかった	50.0 (2)	50.0 (1)
全体の半分以上不使用		50.0 (1)
全体の約半分は使用		
半分以上は使用	25.0 (1)	
毎回使用 (常用)	25.0 (1)	0 (0)

表 41 過去 1 年間に決まった相手とのセックスの前および最中におけるアルコール・薬物使用行動(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)	全体 (n)
過度のアルコール	35.6 (18)	20.0 (18)	23.4 (36)
マリファナ	15.6 (10)	16.7 (15)	16.3 (25)
エクスタシー	4.7 (3)	3.3 (3)	3.9 (6)
その他		1.1 (1)	0.6 (1)

表 42 過去 1 年間にその場限りの相手とのセックスの前および最中におけるアルコール・薬物使用行動(性経験のある人の中での割合)

	男 (n)	女 (n)	全体 (n)
過度のアルコール	15.2 (5)	25.8 (8)	20.3 (13)
マリファナ	18.2 (6)	12.9 (4)	15.6 (10)
エクスタシー	6.1 (2)	3.2 (1)	4.7 (3)

表 43 セックス以外の場面におけるアルコール・薬物使用行動(全体での割合)

	男 (n)	女 (n)	全体 (n)
過度のアルコール	24.1 (28)	15.1 (24)	18.9 (52)
マリファナ	22.4 (26)	15.7 (25)	18.5 (51)
エクスタシー	8.6 (10)	4.4 (7)	6.2 (17)
クラック、コカイン	2.6 (3)	3.1 (5)	2.9 (8)
クリスタル、スピード			
LSD、マッシュルーム	1.7 (2)	0 (0)	0.7 (2)

表 44 年齢階級とセルフ・エスティーム尺度得点(一元配置分散分析)

	男 (SD)	女 (SD)	全体 (SD)	P 値
10 代	34.27(7.9)	33.8(7.0)	33.9(7.2)	
20 代	37.18(6.8)	36.7(6.9)	36.9(6.9)	.044
30 代	40.0(11.3)	37.6(5.8)	37.9(6.2)	

表 45 主観的語学力とセルフ・エスティーム(一元配置分散分析)

主観的語学力	平均点 (SD)	P 値
レベル 1	27.0(6.1)	
レベル 2	31.3(2.1)	
レベル 3	32.1(9.1)	
レベル 4	36.0(6.2)	
レベル 5	36.7(6.9)	.000
レベル 6	35.5(6.1)	
レベル 7	38.2(5.5)	
レベル 8	40.8(6.0)	
レベル 9	39.4(6.5)	
レベル 10	45.5(6.4)	
全体の平均点	36.6(6.9)	

表 46 性的指向とセルフ・エスティーム(一元配置分散分析)

	平均点(SD)	P 値
異性愛	36.7(6.7)	
同性愛	32.0	
両性愛	37.4(13.8)	.095
判らない	31.3(9.5)	
決めたくない	27.7(3.8)	

表 45 HIV/AIDS 一般知識正答率

知識質問項目	男	女	全体
①日本の HIV 感染者は増加していると思いますか	89.7%	93.7%	92.0%
②日本の HIV 感染経路は性行為によるものが多いと思いますか	87.1%	85.4%	86.1%
③エイズの治療薬は進歩したがまだ完治は出来ない	81.9%	79.7%	80.7%
④HIV 感染者が使用した食器を共有すると、HIV に感染	88.7%	95.6%	92.7%
⑤HIV 感染者と一緒にプールや風呂に入ると、HIV に感染	77.6%	86.6%	82.8%
⑥HIV 感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIV に感染	42.2%	47.1%	45.1%
⑦HIV 感染者が使用したトイレを使うと、HIV に感染	78.3%	89.9%	85.0%
⑧HIV に感染している妊婦から赤ちゃんに HIV が感染する	89.7%	93.6%	91.9%
⑨オーラルセックスで、口から性器に性感染症(性病)が感染する	65.5%	58.2%	61.3%
⑩オーラルセックスで、性器から口に性感染症(性病)が感染する	73.9%	75.5%	74.8%
⑪性感染症(性病)にかかっていると、HIV に感染していることがある	37.4%	41.8%	39.9%
⑫健康に見えても、HIV に感染していることがある	82.8%	94.3%	89.5%
⑬一回の性行為感染で HIV は、女性より男性が感染しやすい	33.9%	41.8%	38.5%
⑭一回の性行為感染で HIV は、男性より女性が感染しやすい	16.7%	24.7%	21.3%
⑮性感染症(性病)の原因となる病原体に感染すると、必ず症状が出る	53.4%	67.7%	61.7%
⑯コンドーム使用は HIV 感染の予防に有効	88.7%	93.7%	91.6%
⑰コンドーム使用は性感染症(性病)の予防に有効	94.0%	91.2%	92.4%
⑱通常の HIV 検査では感染後 2~3 日で感染がわかる	47.8%	65.4%	58.0%
⑲日本の保健所では名前を言わずに無料で HIV 検査できる	57.8%	56.6%	57.1%

表 46 HIV/AIDS 一般知識正答率×滞在月数

(単位:ヶ月)

HIV/AIDS 一般知識	1-9	10-18	19-25	26-97
①日本の HIV 感染者は増加していると思いますか	92.2%	90.7%	90.2%	94.5%
②日本の HIV 感染経路は性行為によるものが多いと思いますか	87.5%	78.7%	93.4%	86.3%
③エイズの治療薬は進歩したがまだ完治は出来ない	85.9%	70.7%	85.2%	82.3%
④HIV 感染者が使用した食器を共有すると、HIV に感染	93.7%	93.3%	91.8%	91.8%
⑤HIV 感染者と一緒にプールや風呂に入ると、HIV に感染	79.7%	81.3%	81.7%	87.7%
⑥HIV 感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIV に感染	35.9%	43.2%	41.0%	58.9%
⑦HIV 感染者が使用したトイレを使うと、HIV に感染	85.9%	80.0%	82.0%	91.7%
⑧HIV に感染している妊婦から赤ちゃんに HIV が感染する	90.5%	92.0%	91.8%	93.2%
⑨オーラルセックスで、口から性器に性感染症(性病)が感染する	51.6%	69.3%	32.5%	68.5%
⑩オーラルセックスで、性器から口に性感染症(性病)が感染する	68.8%	78.7%	70.0%	81.1%
⑪性感染症(性病)にかかっていると、HIV に感染していることがある	37.1%	34.7%	44.3%	44.6%
⑫健康に見えても、HIV に感染していることがある	89.1%	90.7%	85.2%	91.9%
⑬一回の性行為感染で HIV は、女性より男性が感染しやすい	34.9%	34.7%	42.6%	42.3%
⑭一回の性行為感染で HIV は、男性より女性が感染しやすい	23.4%	17.3%	25.0%	20.8%
⑮性感染症(性病)の原因となる病原体に感染すると、必ず症状が出る	65.1%	58.7%	59.0%	63.5%
⑯コンドーム使用は HIV 感染の予防に有効	87.5%	94.7%	91.8%	91.8%
⑰コンドーム使用は性感染症(性病)の予防に有効	87.5%	94.7%	93.4%	93.2%
⑱通常の HIV 検査では感染後 2~3 日で感染がわかる	52.4%	61.3%	60.7%	58.1%
⑲日本の保健所では名前を言わずに無料で HIV 検査できる	51.6%	61.3%	59.0%	56.8%

表 47 HIV/AIDS 一般知識正答率×リクルート地点

HIV/AIDS 一般知識	短大	Japan town	語学学校	4 年制大学
①日本の HIV 感染者は増加していると思いますか	95.0%	100%	86.7%	87.9%
②日本の HIV 感染経路は性行為によるものが多いと思いますか	91.7%	88.0%	83.3%	79.8%
③エイズの治療薬は進歩したがまだ完治は出来ない	82.5%	84.0%	86.7%	75.8%
④HIV 感染者が使用した食器を共有すると、HIV に感染	95.0%	96.0%	86.2%	90.9%
⑤HIV 感染者と一緒にプールや風呂に入ると、HIV に感染	78.2%	88.0%	76.7%	88.9%
⑥HIV 感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIV に感染	40.0%	64.0%	40.0%	48.0%
⑦HIV 感染者が使用したトイレを使うと、HIV に感染	80.7%	92.0%	93.3%	85.9%
⑧HIV に感染している妊婦から赤ちゃんに HIV が感染する	89.9%	100%	100%	89.9%
⑨オーラルセックスで、口から性器に性感染症(性病)が感染する	63.3%	72.0%	56.7%	57.6%
⑩オーラルセックスで、性器から口に性感染症(性病)が感染する	74.4%	88.0%	73.3%	72.4%
⑪性感染症(性病)にかかっていると、HIV に感染していることがある	38.3%	52.0%	30.0%	41.8%
⑫健康に見えても、HIV に感染していることがある	80.2%	100%	100%	94.9%
⑬一回の性行為感染で HIV は、女性より男性が感染しやすい	31.7%	48.0%	40.0%	43.9%
⑭一回の性行為感染で HIV は、男性より女性が感染しやすい	20.2%	24.0%	33.3%	18.4%
⑮性感染症(性病)の原因となる病原体に感染すると、必ず症状が出る	59.5%	75.0%	66.7%	59.6%
⑯コンドーム使用は HIV 感染の予防に有効	92.5%	92.0%	96.7%	88.9%
⑰コンドーム使用は性感染症(性病)の予防に有効	91.7%	92.0%	100%	90.9%
⑱通常の HIV 検査では感染後 2~3 日で感染がわかる	56.7%	52.0%	60.0%	60.6%
⑲日本の保健所では名前を言わずに無料で HIV 検査できる	61.2%	76.0%	43.3%	51.5%

表 48 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(随性交)

	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった	4.3 (2)	5.6 (1)	18.2 (4)	14.8 (9)
全体の半分以上不使用	14.9 (7)	11.1 (2)	31.8 (7)	16.4 (10)
全体の約半分は使用	8.5 (4)		13.6 (3)	16.4 (10)
半分以上は使用	19.1 (9)	44.4 (8)	9.1 (2)	27.9 (17)
毎回使用(常用)	53.2 (25)	38.9 (7)	27.3 (6)	24.6 (15)

表 49 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(オーラル)

	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった	81.6 (31)	78.6 (11)	100 (19)	83.0 (44)
全体の半分以上不使用	5.3 (2)	14.3 (2)		9.4 (5)
全体の約半分は使用				
半分以上は使用	2.6 (1)			3.8 (2)
毎回使用(常用)	10.5 (4)	7.1 (1)		3.8 (2)

表 50 過去 1 年間の決まった相手とのコンドーム使用状況(アナル)

	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった		40.0 (2)		50.0 (5)
全体の半分以上不使用	33.3 (1)			10.0 (1)
全体の約半分は使用				10.0 (1)
半分以上は使用		20.0 (1)		20.0 (2)
毎回使用(常用)	66.7 (2)	40.0 (2)	100 (2)	10.0 (1)

表 51 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(随性交)

	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった	25.0 (6)		12.5 (2)	40.0 (6)
全体の半分以上不使用	12.5 (3)		25.0 (4)	
全体の約半分は使用		40.0 (2)	12.5 (2)	13.3 (2)
半分以上は使用	4.2 (1)	20.0 (1)	25.0 (4)	13.3 (2)
毎回使用(常用)	58.3 (14)	40.0 (2)	25.0 (4)	33.3 (5)

表 52 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(オーラル)

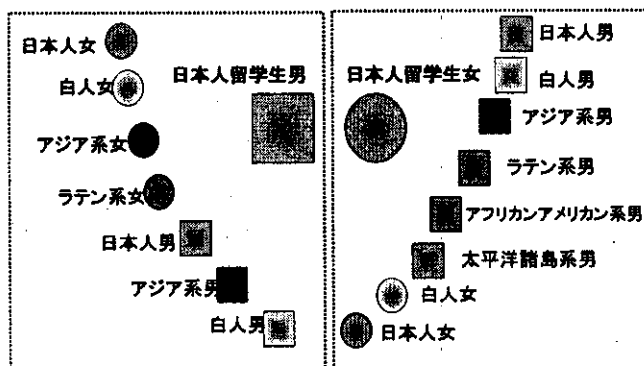
	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった	83.3 (15)	75.0 (3)	84.6 (11)	72.7 (8)
全体の半分以上不使用		25.0 (1)	7.7 (1)	9.1 (1)
全体の約半分は使用	11.1 (2)		7.7 (1)	
半分以上は使用				9.1 (1)
毎回使用(常用)	5.6 (1)			9.1 (1)

表 53 過去 1 年間のその場限りの相手とのコンドーム使用状況(アナル)

	短期大学	Japan town	語学学校	4 年制大学
一度も使わなかった			50.0 (1)	66.7 (2)
全体の半分以上不使用				
全体の約半分は使用				
半分以上は使用		100 (1)	50.0 (1)	33.3 (1)
毎回使用(常用)				

図 1

### 拡大する留学生のセクシュアル・ヒストリー エスニシティと性別



## 研究 ④ 親・子・教師の意識・知識の違いに関する調査(地方 B 県)

代表研究者：	木原 雅子	広島大学医学部公衆衛生学講座
班 員：	伊藤 智子	広島大学医学部公衆衛生学講座
	木原 正博	京都大学大学院医学研究科国際保健学
研究協力者：	田村 暁子	広島大学医学部公衆衛生学講座

### 目的：

地方 B 県の高校生・保護者・教師を対象に、高校生自身と彼らを取り巻く環境としての大人の HIV/STD 関連知識、性意識の実態を捉え、今後の若者に対する予防教育方法の開発に資する基礎情報を得ることを目的とした。

### 方法

【対象者】：地方 B 県に在住する高校生ならびにその保護者、教師

【サンプリング方法】：悉皆調査－広島県に所在地を置く国公立の全ての全日制高等学校 124 校（分校は含めるが定時制高校・養護学校は除く）（トーク社発行「広島県の学校」）に調査を依頼した。

【調査の手順】：

- (1) 地方 B 県の全養護教諭・保健主事を対象に、若者の性行動の現状および早急な予防教育の必要性を伝える講演会を実施した。（平成 13 年 6 月）
- (2) 講演会に参加した養護教諭全員に調査実施可能性（feasibility）を尋ねる予備調査を行った。（平成 13 年 6-8 月）
- (3) 県内の全ての養護教諭に郵送で調査を依頼した。（平成 13 年 9 月）  
参加可能性の質問をし、参加可能校という返答をもらえなかった学校には再度、FAX で調査の重要性を説明し参加を促した。また、検討中の学校に対しては、個別に電話にて調査の重要性および詳細な説明を行い、回収率の向上につとめた。

【調査の実施時期】平成 13 年 10 月-12 月

【調査方法】

**高校生**：学校における集団調査（試験と同じ要領で、回りの人の回答を見ないように指示）  
対象者の権利、秘密保持、プライバシーの保護：調査は、無記名でありどうしても答えたくない場合は無理に答える必要はないこと（白紙での提出可）や、調査の途中で止めたい場合には申し出て中断して良いことを、あらかじめ調査票に記載し、施行する学校側にも文書で伝えた。記入の終わった調査票は、高校生自身で添付のシールで封をし、学校関係者も内容の点検を行わず学校単位で返送した。

**保護者**：保護者は生徒の調査票と同じコード番号をつけた保護者用の調査票を生徒が自宅へ持ち帰り、男性保護者と女性保護者が別々に記入後料金別納郵便にて返送した。

**教師**：参加校の教師全員に調査票を配布し、各自一定期間内に記入してもらい（上記と同様、無記名で白紙での提出も可能として）、各学校の養護教諭がそれを取りまとめ、学校単位で返送してもらった。

【質問紙の内容と構造】設問の総数は、高校生では主設問 40 問+付問 18 問で（資料 2）、保護者では主設問 15 問+付問 4 問（資料 3）、教師では主設問 11 問+付問 1 問（資料 4）だった。

### ●高校生に対する質問

- ①属性（性別、年齢、学年）

## ②家庭環境

- ・ 家族構成
- ・ 親との会話の頻度
- ・ 会話の相手
- ・ 会話所要時間
- ・ 家庭のしつけの厳格さ（服装に関して）
- ・ 家庭のしつけの厳格さ（交際に関して）

## ③日常生活

- ・ 学校での部活
- ・ 通学手段
- ・ よく遊びに行く場所
- ・ 帰宅時間
- ・ 外泊回数
- ・ 通信手段
- ・ 親からのお小遣いの額
- ・ アルバイトの有無
- ・ 各種経験（リップクリーム・マユ・マニキュア・化粧・ピアス・パーマ・毛染め・エステ・いれずみ・たばこ・酒・薬物・テレクラ・援助交際）

## ④STD/HIV 関連知識

- ・ STD/HIV 基礎知識の質問
- ・ セックスについていつ知ったか
- ・ 誰から（何から）知ったか
- ・ エッチマンガの経験・最初はいつ・頻度
- ・ エッチ雑誌の経験・最初はいつ・頻度
- ・ AV の経験・最初はいつ・頻度
- ・ メディアの性的描写をどう思うか
  
- ・ クラスメートの性交経験率の予測値
- ・ 友達のコンドーム使用率
- ・ つきあっている人がいるか（相手はどういう人か・どこで知り合ったか・親は知っているか）

## ⑤性行動

- ・ セックスの経験の有無
- ・ はじめてはいつ
- ・ これまでの相手の総数
- ・ コンドーム使用状況
- ・ コンドーム使用目的
- ・ 一番最近のセックス時のコンドーム使用率
- ・ コンドームを持っていたのは誰？
- ・ 使おうと言ったのは誰？

## ⑥コンドームに対する態度

- ・ コンドーム使用に対する態度 (intention)
- ・ コンドームはどのように手に入れるか
- ・ セックスしたくないとき断れるか
- ・ コンドーム使用を促せるか

- ・ 新しい相手にコンドーム使用を促せるか
- ・ 嫌がる相手にコンドーム使用を促せるか
- ・ 女性がコンドーム使用をすすめることはどう思う？
- ・ 男性がコンドーム使用をすすめることはどう思う？

⑦性に関するコミュニケーション

- ・ 妊娠・性病・エイズについて話すか

⑧若者の性行為の認容度

- ・ 高校生のセックスを認めるか
- ・ 中学生のセックスを認めるか

⑨セルフエスティーム

⑩性教育

- ・ 学校での性教育はどのような授業形態だったか？
- ・ 高校卒業までに知りたいことは？
- ・ 学校の先生に教えて欲しい内容は？
- ・ 家庭で教えて欲しい内容は？
- ・ 専門家から習いたい内容は？
- ・ 学校で習ったことは？
- ・ 家庭で習ったことは？
- ・ 専門家から習ったことは？
- ・ 教えてもらう必要がないものは？

⑪性教育の仕方（教え方）

⑫感想

● 保護者に対する質問

① 属性（年齢）

② 子どもについての質問

- ・ よく遊びに行く場所はどこか？
- ・ 1ヶ月のおこづかいの額
- ・ アルバイトの有無
- ・ 現在交際している人がいると思うか
- ・ 子どもとも会話の頻度（および時間数）
- ・ 子どもとセックスについて話したことがあるか（内容は）
- ・ いつ、セックスについて知ったと思うか
- ・ 子どものクラスのセックス経験率の予測値
- ・ 高校生のセックスに対する認容度
- ・ 中学生のセックスに対する認容度

③ STD/HIV 関連知識

④ 性に関する教育についての質問

- ・ 高校卒業までに知っておくべき性的知識
- ・ 学校の先生から子どもに教えて欲しい性に関する知識・情報
- ・ 家庭で教えるべきだと思っている内容
- ・ 学校以外の専門家が教えるべきだと思っている内容
- ・ どこでもあえて教える必要がない内容
- ・ 学校以外の専門家では誰が適当か

⑤ 高校生の性教育に対する意見（自由記載）

● 教師に対する質問

- ① 属性
  - ・ 性別
  - ・ 年齢
  - ・ 先生としての勤務年数
- ② 高校生に対する考え
  - ・ 高校生のセックスに対する認容度
  - ・ 中学生のセックスに対する認容度
  - ・ その教師の高校の生徒のセックス経験率の予測値
- ③ STD/HIV 関連知識
- ④ 性に関する教育についての質問
  - ・ 性教育の年間必要時間数
  - ・ 高校卒業までに知っておくべき性的知識
  - ・ 学校の先生から子どもに教えて欲しい性に関する知識・情報
  - ・ 家庭で教えるべきだと思っている内容
  - ・ 学校以外の専門家が教えるべきだと思っている内容
  - ・ どこでもあえて教える必要がない内容
  - ・ 学校の性教育は誰が行うのが適当か
  - ・ 性教育を行う学校外の専門家としては誰が適当か
- ⑤ 高校生の性教育に対する意見（自由記載）

結果：生徒参加校は 38 校 (30.6% : 38/124 校)、保護者参加校は 10 校 (8.1% : 10/124 校)、教師参加校 22 校 (17.7% : 22/124 校) であった。参加校における調査参加者数は、高校生 6285 名 (88.0% : 6285/7143 名)、保護者 656 名 (男性保護者 319/1718 名 : 18.6%、女性保護者 337/1718 名 : 19.6%)、教師 738 名 (738/1325 名 : 55.7%) であった。

(1) 知識の正解率 (%)

表1. HIV/STD知識正解率の比較

	高校2年生 n=6285	保護者 n=656	教師 n=738	教育後生徒 n=165
日本の若者でHIV感染者が増加	77.1	63.1	72.6	88.5
日本の若者でSTD患者が増加	83.7	67.1	85.1	89.1
食器で、HIV感染しない	80.2	77.7	88.2	78.2
風呂で、HIV感染しない	77.3	76.2	90.5	81.2
トイレで、HIV感染しない	79.0	77.6	90.4	83.0
STDとHIV感染の相互作用	25.0	13.7	23.2	69.1
口からペニスにSTD感染	23.3	38.7	53.1	76.4
ペニスから口にSTD感染	37.2	45.0	65.2	83.0
STDは必ず症状出現	42.1	42.8	70.3	76.4
STD放置は不妊の原因	52.4	49.5	67.2	77.6
STD罹患は子宮癌罹患を促進	30.3	17.1	27.2	69.7
新薬でエイズの発症遅延	49.8	27.3	47.0	65.5
感染後数日ではHIV感染判定は不可	29.1	40.2	57.0	33.9
陽性者の名前・住所は国に報告されない	35.7	38.3	49.7	62.4
保健所ではHIV匿名検査実施	42.8	44.8	63.7	77.6
保健所ではHIV無料検査実施	32.0	37.5	56.8	74.5
保健所でHIV無料匿名検査実施	26.9	26.1	43.8	74.5
コンドームはSTD/HIV予防に有効	87.0	84.8	94.2	88.5
ピルは避妊薬である	83.5	80.9	87.8	83.0
ピルでエイズは防げない	58.0	79.9	90.7	67.9
ピルでSTDは防げない	54.1	79.4	90.1	67.3
正解率の平均値	52.7	52.7	67.3	74.6



表1にSTD/HIV関連知識の正解率の比較を示す。知識の正解率の平均値は高校2年生と保護者が全く同じで52.7%で、教師では67.3%と約15%ほど高率であった。しかし、予防教育を行うと高校2年生でも教師群よりも高い正解率になる可能性が示唆された。

## (2)性規範の比較

### ●高校生がセックスすることをどう思うか

表2. 高校生がセックスすることをどう思うか

	高2男子 スコア n=3171	高2女子 n=2836	父親 n=319	母親 n=337	男教師 n=457	女教師 n=256	
かまわない	4	67.6	56.2	4.1	1.2	4.4	2.0
どちらかと言えばかまわない	3	15.7	23.0	6.9	5.6	10.5	11.7
どちらかと言えばよくない	2	6.1	8.2	29.8	32.3	34.6	43.8
よくない	1	2.6	3.9	37.3	54.3	48.1	39.5
わからない	0	5.9	7.1	2.8	1.5	1.5	2.3
無記入	0	2.1	1.5	19.1	5.0	0.9	0.8
トータルスコア		3.3	3.1	1.3	1.4	1.7	1.7

高校生がセックスすることを「かまわない」と認めている人の割合（認容度）は、高2男子では68%、高2女子では56%とかなりの割合が認めていたが、保護者、教師では認容度は5%以下であり、高校生と大人たち（保護者・教師）との間に大きなギャップが存在することが示唆された。さらに、保護者と教師の間でも高校生との差ほど大きくはないがギャップが存在し、保護者の方が教師に比べ、より認容度が低かった（ $\chi^2=9.8, p=0.04$ ）。また、性別で見ると、まず、高校生では、女子生徒に比べ男子生徒で認容度が高く（ $\chi^2=78.5, p<0.001$ ）、保護者でも、母親に比べ父親の方が認容度が高いが（ $\chi^2=14.2, p<0.01$ ）、教師では、男性教師に比べ女性教師の方が認容度がやや高かった（ $\chi^2=10.0, p=0.04$ ）。

### ●中学生がセックスすることをどう思うか

表3. 中学生がセックスすることをどう思うか

	高2男子 n=3171	高2女子 n=2836	父親 n=319	母親 n=337	男教師 n=457	女教師 n=256	
かまわない	4	44.6	28.6	1.6	0.0	2.6	1.2
どちらかと言えばかまわない	3	18.6	22.9	1.9	1.2	2.4	3.9
どちらかと言えばよくない	2	14.7	23.2	7.5	6.8	13.3	18.4
よくない	1	12.7	16.2	69.0	86.6	80.5	74.2
わからない	0	7.1	7.4	0.9	0.6	0.7	1.6
無記入	0	2.2	1.7	19.1	4.7	0.4	0.8
トータルスコア		2.8	2.5	1.0	1.0	1.2	1.3

中学生がセックスすることを「かまわない」と認めている人の割合（認容度）は、高2男子では45%、高2女子では29%と、中学生のセックスを認めている人も、少なからず存在する。それに対し、保護者・教師では0-3%でほとんど認めていないことが示され、前述の高校生のセックス同様、高校生と大人たち（保護者・教師）の意識との間に大きなギャップが存在することが示唆された。さらに、前述の高校生に対する認容度の場合と同様、保護者と教師の間にもギャップが存在し、保護者の方が教師に比べより認容度が低かった（ $\chi^2=22.0, p<0.001$ ）。次に、性別による違いを見ると、生徒の間では男女差が見られ、女子生徒に比べ男子生徒では中学生のセックスに対する認容度が高かった（ $\chi^2=188.4, p<0.001$ ）が、保護者や教師では男女差は見られなかった。

### (3) 親子のコミュニケーションの現状

表4. 普段、親とどれくらい話をするか？

人数	高2男子	高2女子
	n=3212	n=3010
	%	%
よく話をする	52.1	76.1
たまに話をする	38.7	18.9
ほとんど話をしない	7.5	3.7
まったく話をしない	1.3	0.8
無記入	0.4	0.5

表5. よく話をする相手は誰ですか\*？

人数	高2男子	高2女子
	n=1672	n=2290
	%	%
父親	12.1	5.3
母親	84.0	91.7
両方	1.7	1.0
無記入	2.2	2.1

\*親とよく話をする生徒の中での割合

表6. 一日にどれくらい話をしますか\*？

人数	高2男子	高2女子
	n=1672	n=2290
	%	%
1時間以上	23.3	46.9
30分-1時間未満	29.6	27.9
10分-30分未満	35.6	20.4
10分未満	10.9	4.1

\*親とよく話をする生徒の中での割合

表4では、普段の親子の日常会話（コミュニケーション）の程度を尋ねた。男女ともに「よく話をする」生徒の割合が最も高かった（男子生徒52%、女子生徒76%）。性別では、男子生徒に比べ女子生徒の方が親とよく話をしていることが示唆された（ $\chi^2=393.0, p<0.001$ ）。さらに、「よく話をする」生徒に対し、よく話をする相手は誰なのか（表5）、一日にどれくらい話すのか（表6）を尋ねた。話す相手は母親が圧倒的に多く（男子生徒84%、女子生徒92%）、一日に話す時間では女子生徒では1時間以上が約半数（47%）を占めていたが、男子生徒では、10分以上30分未満が最も多かった。

### (4) セックスについてはじめて知ったのはいつ（いつと思うか）

表7. セックスについていつ知ったか（お子さんはいつ知ったと思うか）

	男保護者	女保護者	高2男子	高2女子
	n=319	n=337	n=3212	n=3010
小学校	17.9	35.0	54.6	66.9
中学校	51.4	52.5	37.3	19.7
高校	7.5	5.6	1	0.8
まだ知らないと思う	2.8	1.2		
無回答	20.4	5.6	7.1	12.6

表7に、保護者に対して、「自分の子どもがセックスのことについていつ知ったと思うか」という質問の結果と生徒に対して、「セックスのことについてはじめて知ったのはいつか」という質問をした結果の比較を示した。その結果、小学生までにセックスのことについて知ったと思っている親は、男性保護者の18%、女性保護者の35%であったが、実際子ども達自身は、高2男子の55%、高2女子の67%が小学生までにセックスのことについて知っており、保護者が考えているよりもずっと以前にセックスについて知っていることが示され、ここでも親子の差異が顕著に観察された。また、親子の会話の現状を反映してか、女性保護者に比べ、男性保護者の方（男女差： $\chi^2=17.3, p<0.001$ ）が、さらに子ども達の現実から乖離していることが示された。

## (5) 親子のコミュニケーションの程度と子どもの性交経験率との関係

表8. 親子会話と子どもの性交経験率との関係

	高2男子		高2女子	
	人数	性交経験率 (%)	人数	性交経験率 (%)
よく話をする	1653	18.8	2169	23.1
たまに話をする	1226	21.0	531	36.0
ほとんど話をしない	238	25.6	103	38.8
まったく話をしない	41	31.7	22	68.2

表8に親子のコミュニケーションの程度と子どもの性交経験率との関係を示した。親子のコミュニケーションの程度と子どもの性交経験率との間には関連があり、男女とも、親子の会話の少なくなるほど生徒の性交経験率が高くなり（負の量反応関係）、女子生徒でその傾向がより顕著であった。但し、本調査は横断研究であるため、本調査の結果から因果関係を導くことはできない。したがって、その因果関係については、今後の調査が必要であると考えられる。

## (6) 高校生の性交経験率と大人の予測値

表9. 高校2年生のセックスの経験率

	高2男子	高2女子	父親	母親	男教師	女教師
セックス経験率	20.3	26.3	16.1	17.6	21.4	26.4

対象となった高校2年生男子のセックス経験率は20%、女子は26%であった。保護者に自分の子どものクラスのセックスの経験率（自分の子ども経験ではなく）を予想してもらったところ、父親では16%、母親では18%と実際よりも1割程度低めであったが、自分の子どもに対する前述の予測ほどはずれてはいない。また、教師の所属する学校の高校2年生のセックス経験率の予測値は男子教師で21%、女性教師で26%で、現実とほぼ同値であり、調査に応じた教師では高校生の現実をかなり正確に把握していると考えられた。

## (7) 高校生が知っておくべき性情報の内容と誰がその情報を教えるべきかについての保護者と教師の意見

性に関する情報で、どのような情報を高校生に伝えるべきか、その中で学校で教えるべき情報・あるいは家庭で教えるべき情報は何かに対する考えを保護者と教師で比較したものを表10に示す。全体として、保護者の方が教師に比べて、性教育の必要性を感じている人の割合が約20%低く、高校生の性教育に消極的であった。まず中絶に関しては教師の7-8割が教育の必要性を感じていたが、保護者では半数を切っていた。また、STDに関しては教師では8割以上が知っておくべきであると考えるが、保護者では6割強に留まった。さらにこれらを防ぐためのコンドーム使用方法についても教師では約7割がその必要性を感じているが、保護者では5割程度であった。

さらに、これらの情報を誰が（学校か家庭か専門家か）教えるべきかについての意見を保護者と教師で比較すると、保護者では、まず期待される教育実施者の全体の順位は、専門家・学校・家庭の順であるが、内容別に見ると、出産・妊娠・避妊に関しては自分達が教えるべきだと考える人が多く、STDとエイズのことは学校で教えるべきだと考え、中絶・HIV/STD予防方法・コンドーム使用方法・同性愛については専門家が教えるべきであると考えた人の割合が高かった。それに対し、教師では、期待される教育実施者の全体の順位は、学校・専門家・家庭の順であり、学校教育に重点を置いた回答であった。一方、内容

別では、性交・出産・妊娠は家庭で教えるべきで、中絶・避妊法・STD・エイズ・HIV/STDの予防方法は学校で教えるべきで、コンドーム使用方法と同性愛に関しては専門家が教えるべきだと考える人の割合が高かった。

表10. 学校や家庭で教えるべきことは何ですか？

	性交	妊娠・ 出産	中絶の こと	避妊 法	S T D の こ と	エイ ズ の こ と	エイ ズ や 性 病 の 予 防 方 法	男 性 コ ン ド ー ム の 使 用 法	女 性 用 コ ン ド ー ム の 使 用 法	同 性 愛 の こ と	平均値	
高校生が知っておくべきこと	人数											
父親	235	55.3	62.1	43.4	71.1	66.4	63.4	71.9	52.8	31.5	28.5	54.6
母親	306	58.5	61.4	49.7	70.9	66.7	69.3	68.3	51.0	34.0	22.2	55.2
男性教師	429	70.2	79.3	70.9	80.7	80.2	79.7	78.8	64.1	54.1	43.8	70.2
女性教師	245	74.7	85.3	78.8	86.9	82.0	83.7	84.9	71.8	62.9	52.2	76.3
保護者 専門家が教えるべきこと												
父親	210	31.9	44.3	45.2	49.0	53.8	58.1	73.8	48.1	42.4	36.2	48.2
母親	279	33.3	38.4	55.2	53.0	63.4	65.9	75.3	44.1	38.4	30.1	49.7
学校の先生が教えるべきこと												
父親	229	38.0	55.5	34.1	45.9	65.9	66.4	68.1	29.3	21.4	18.3	44.3
母親	283	42.0	53.7	36.0	47.7	60.1	65.4	65.0	22.3	14.5	13.8	42.1
家庭で教えるべきこと												
父親	211	41.7	59.2	33.6	51.2	55.5	54.0	49.3	27.0	19.4	18.0	40.9
母親	282	41.1	66.0	43.3	55.7	46.1	49.6	49.3	25.2	19.5	17.4	41.3
教師 学校で教えるべきこと												
男性教師	423	48.9	71.6	61.9	70.4	76.1	78.5	74.7	47.0	38.5	35.2	60.3
女性教師	236	55.5	79.7	71.6	73.7	81.4	83.5	82.2	51.3	42.4	37.7	65.9
専門家が教えるべきこと												
男性教師	370	37.0	44.3	60.5	51.6	64.6	62.2	70.8	49.7	49.2	45.9	53.6
女性教師	214	40.2	45.3	64.0	57.9	68.2	68.7	76.6	57.9	59.3	47.7	58.6
家庭で教えるべきこと												
男性教師	388	52.8	74.0	49.5	54.4	55.2	56.2	50.8	33.8	29.6	24.7	48.1
女性教師	221	61.1	83.3	60.6	70.1	61.1	59.7	53.4	39.8	34.8	31.2	55.5

結果のまとめ:

- ① 性規範に関してB県の高校生と彼らを取り巻く大人(保護者・教師)の間には、大きな性意識のギャップが存在することが示唆された。
- ② B県の高校生は男女とも母親と比較的会話をよくしていたが、会話の程度と子どもの性交経験率との間には逆相関が見られた。
- ③ B県の高校生は親が考えるよりもずっと以前にセックスのことを知っており、保護者の認知のギャップが示された。
- ④ 全般的に、教師に比べ保護者の方が性教育に対し消極的であり、保護者に対する早急な情報提供の必要性が示唆された。